

### 1 ごみ排出量の推移

#### (1) ごみ総排出量の推移

- ごみ総排出量は、全体的に減少傾向
- 令和元年度（112,999t）は、平成27年度（122,121t）に比べ、9,122t（7.4%）減少。しかし、令和元年度は、前年度に比べ、346t増加
- 家庭ごみ（収集ごみ+資源ごみ）と事業系ごみの割合は、概ね7：3

図1 ごみ総排出量の推移（全体）

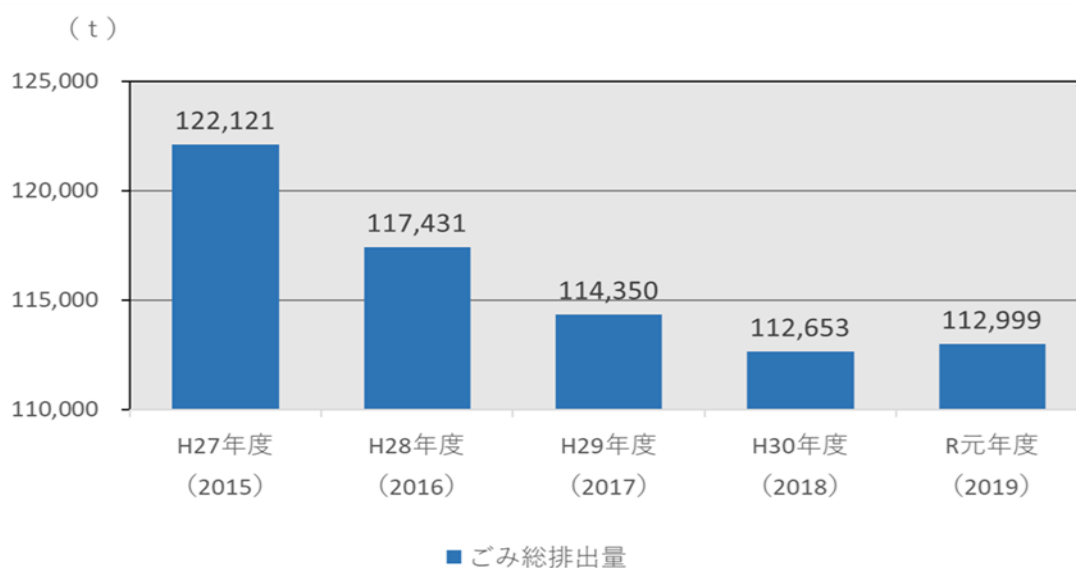
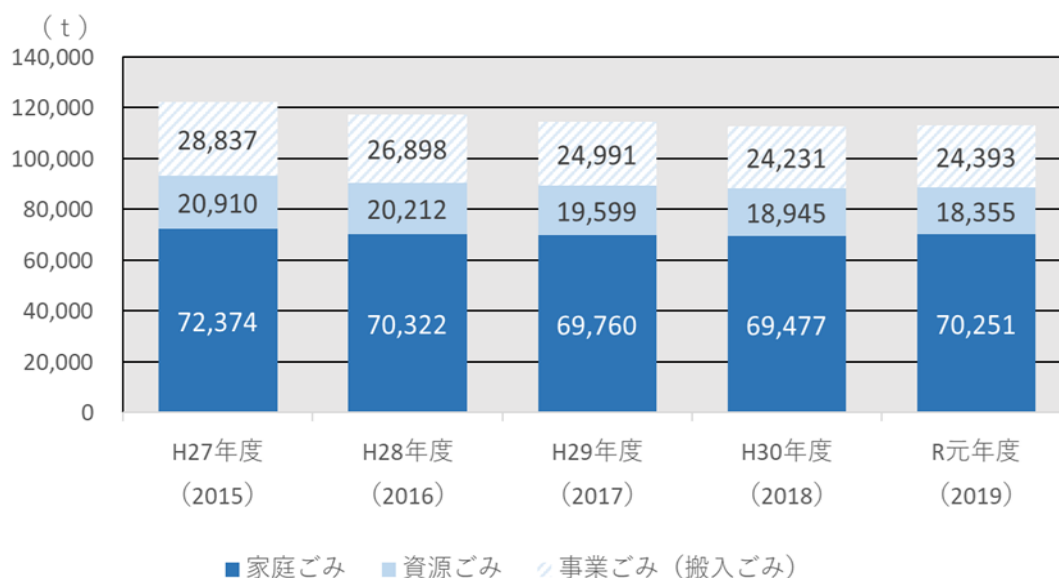


図2 ごみ総排出量の推移（種別）



## (2) 家庭ごみ量の推移

- 家庭ごみ量(資源ごみを除く)は、全体的に減少傾向
- 令和元年度(70,251 t)は、平成27年度(72,374 t)に比べ、2,123 t(2.9%)減少。しかし、令和元年度は、前年度に比べ、約744 t増加
- 資源ごみは、減少傾向

図3 家庭ごみ量の推移(資源ごみを除く)

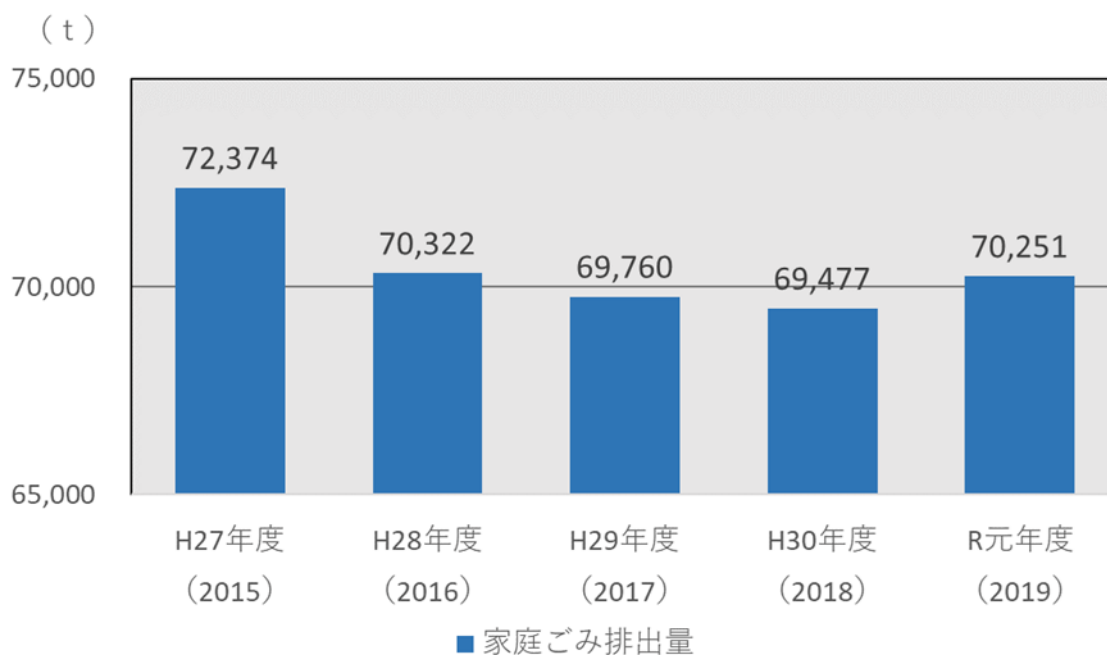
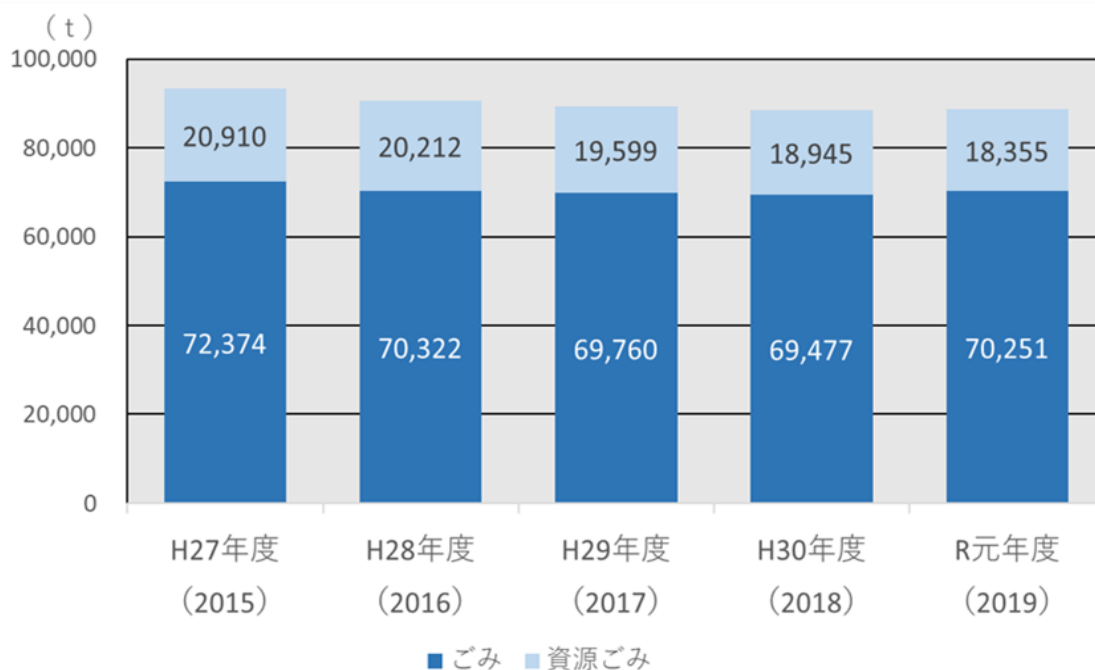


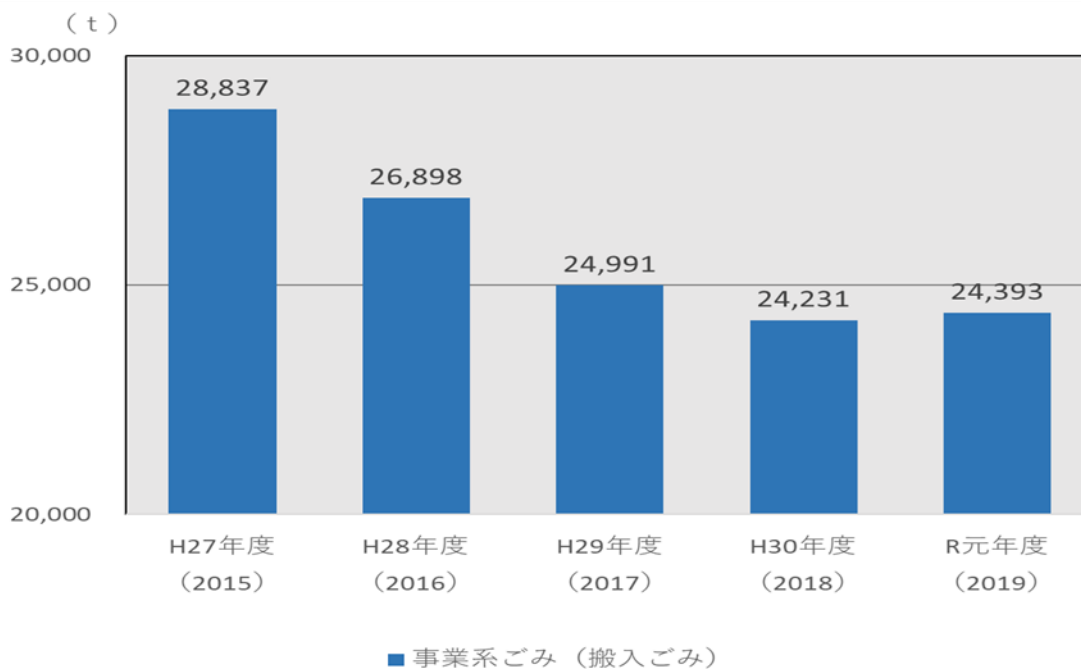
図4 家庭ごみ量の推移(資源ごみを含む)



### (3) 事業系（搬入ごみ）量の推移

- 事業系（搬入ごみ）は、全体的に減少傾向
- 令和元年度（24,393）は、平成27年度（28,837 t）に比べ、4,444 t 減少（約 15.4%）減少。しかし、令和元年度は、前年度に比べ、約 162 t 増加

図5 事業系（搬入ごみ）量の推移



## (4) 市民1人1日あたりのごみ排出量

### ■ごみ総排出量

- 市民1人1日あたりのごみ総排出量は、全体的に減少傾向
- 令和元年度(918g)は、平成27年度(983g)に比べ、65g(6.6%)減少。  
しかし、令和元年度は、前年度に比べ、4g増加

### ■家庭ごみ(資源ごみを除く)

- 市民1人1日あたりのごみ総排出量は、全体的に減少傾向
- 令和元年度(571g)は、平成27年度(583g)に比べ、12g(2.0%)減少。  
しかし、令和元年度は、前年度に比べ、7g増加

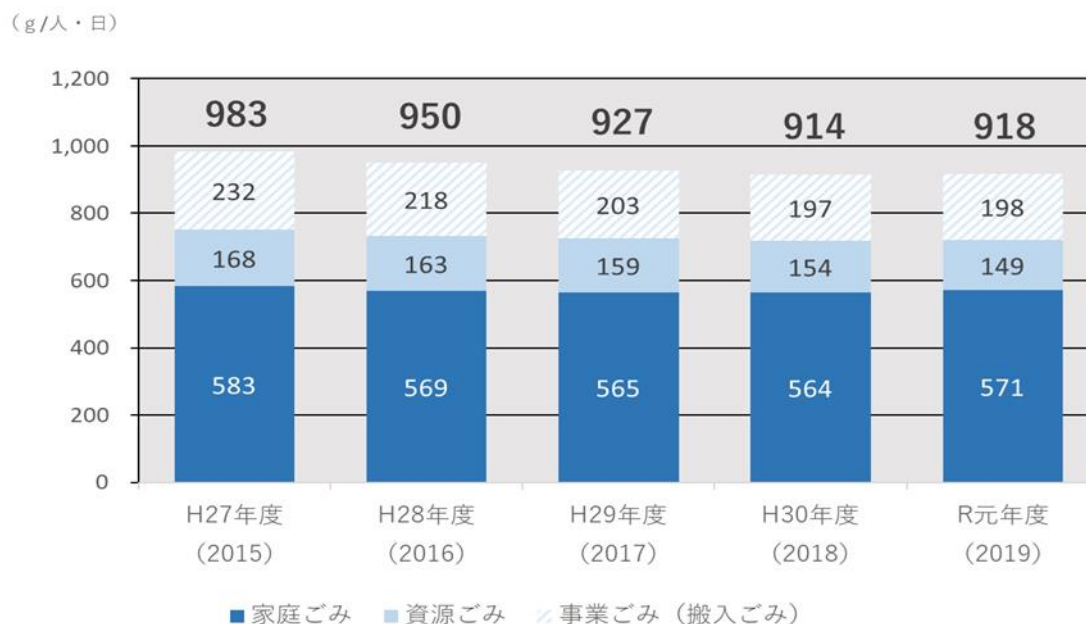
### ■資源ごみ

- 市民1人1日あたりのごみ総排出量は、全体的に減少傾向
- 令和元年度(149g)は、平成27年度(168g)に比べ、19g(11.3%)減少。  
しかし、令和元年度は、前年度に比べ、7g減少

### ■事業系(搬入ごみ)ごみ

- 市民1人1日あたりのごみ総排出量は、全体的に減少傾向
- 令和元年度(198g)は、平成27年度(232g)に比べ、34g(14.6%)減少。  
しかし、令和元年度は、前年度に比べ、1g増加

図6 市民1人1日あたりのごみ排出量



## 2 中間処理量の推移

### ■焼却処理量

(六供清掃工場、亀泉清掃工場、大胡クリーンセンター)

※亀泉清掃工場、大胡クリーンセンターは令和2年3月末に閉場

- 焼却処理量は、全体的に減少傾向。しかし、平成30年度から増加傾向
- 令和元年度(88,631 t)は、平成27年度(95,326 t)に比べ、6,695 t(7.0%)減少。しかし、令和元年度は、前年度に比べ、3,082 t(3.6%)増加

### ■破碎・選別処理量

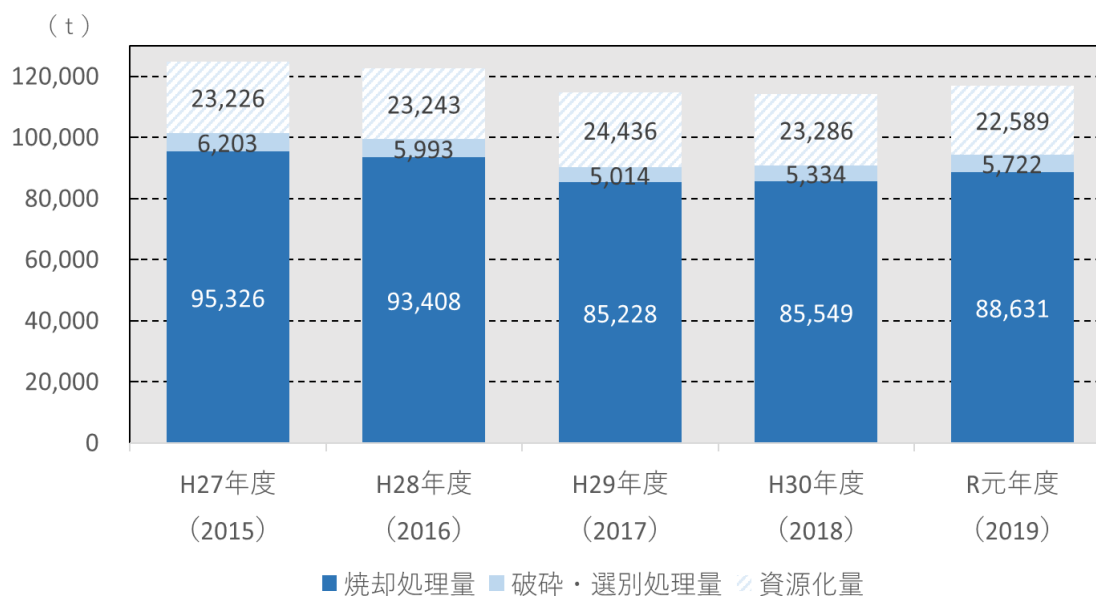
(荻窪清掃工場、富士見クリーンステーション)

- 破碎・選別処理量は、全体的に減少傾向。しかし、平成30年度から増加傾向

### ■資源化量

- 資源化量は、全体的に減少傾向

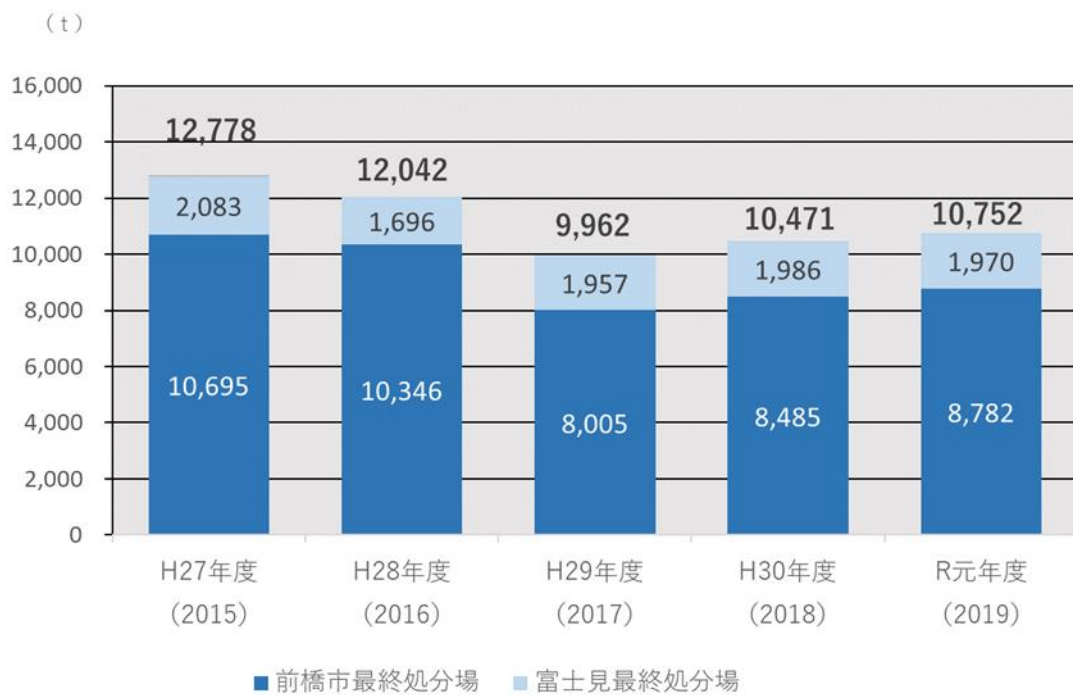
図7 中間処理量の推移



### 3 最終処分量の推移

- 最終処分量は、ごみ総排出量の減少と焼却灰の資源化の増加に伴い、年々減少傾向。しかし、平成 30 年度からやや増加傾向

図 8 最終処分量の推移



## 4 ごみ処理経費の推移

- 令和元年度のごみ処理経費は、約 78 億円
- 平成 30 年度及び令和元年度は、施設の老朽化による維持整備費（六供清掃工場延命化工事）により、ごみ処理経費が増加

図9 ごみ処理経費の推移

